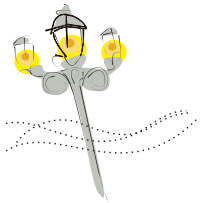
「ＮＰＯ」ワンポイント・アドバイス

～もっと良い会議をつくるコツその３　アイデアを出すための１０の心得！（前編）～

多くの団体が、アイデア出しに苦労しています。そこで２回にわたり、より多くのアイデアを出すための会議術をご紹介します。



❶「何のために、何のアイデアを出すのか」をはっきりさせる。

アイデアを出す会議なのに、ついつい議論が拡散してしまうことがあります。参加者が途中で分からなくならないように、「何について考えているのか」を全員が見える場所に書き出しておきましょう！

❷ 適切なメンバーを集める。

仲間うちだけでなく、その分野に詳しい人や、違う世代や性別、違うバックグラウンドを持つ人等にも積極的に参加してもらいましょう。参加人数は４～６人くらいが適切です。それ以上の時はグループ分けなどをしましょう。

❸ アイデアが出しやすい場所に行く、空間をつくる。

ゆったりと落ち着いた雰囲気の部屋がおすすめです。関連する書籍等を置いておいたり、できるだけ現場と近い場所でアイデアを出し合うこともポイントです。

❹「安全な空間」をつくる

アイデアが出ない理由のひとつに、「こんなことを言ったら批判されるかも」という恐れがあります。はじめに、「何を言ってもいいですよ。どんなアイデアも歓迎しましょう！」と、“ 安全宣言 ” をしておくことも重要です。

❺ 個人が考える時間を設け、それから全体で討議する。

いきなりアイデアを出してと言われても、難しいものです。冒頭で数分間、個人がしっかりと考えてアイデアを出しメモ書きをしておける時間を持ちましょう。また、事前に「宿題」として考えておいてもらうことも効果的です。

相談希望の方は、 まちセンへ

まちづくりセンターでは、もっと具体的な「良い会議のつくりかた」についての相談も受け付けています。お気軽にご相談ください。

参考資料：［ＩＩＨＯＥ］人と組織と地球のための国際研究所発行『ＮＰＯマネジメント』

センター長のつぶやき

丸藤 競

先日札幌で、「めざせ！新しいふれあい社会」というフォーラムの進行役をしてきました。第２部スペシャル対談のゲストは、さわやか福祉財団の堀田力理事長と、北海道大学公共政策大学院の中島岳志准教授。まちづくりや居場所の大切さについて、熱く分かりやすく語ってもらいました。その中で印象に残っている言葉をひとつ紹介します。

＜裸足で道を歩いた人が、尖った石を踏んで怪我をしました。この人が怪我をしないためには二つの方法があります。一つは、地上の陸地全てにゴムを敷き詰めてあげる。もうひとつは、その人が靴を履くこと。どちらが現実的で効果が高いか？

当然、靴を履くことですよね。自ら動こうとしないくせに、○○は何もしてくれないと文句ばかり言う。これでは、いつまでたっても何も解決しないままです。新しい年、積極的に自分で靴を履き、色々な現場に出かけて行きたいと思っています。